

わいわいタイムス

～ みんなの力で上関町をもっと元気にしよう! ～

童謡作家

野口雨情と上関町

みなさんは、「上関ごんげん節」という歌をご存知でしょうか？

上関町の、それぞれの地区の特徴をつまくとらえた歌詞になっていて、楽しそうな歌です。この歌を作られたのは、詩人であり、童謡・民謡などの作詞家として、多くの名曲を残された野口雨情です。

彼の作詞した歌は驚くほどたくさんあり、63年の生涯の中で二千余点も作られたそうです。大正時代の終わり頃から昭和初期にかけて彼は、全国各地から招かれて“作詞行脚”をしたようであり、この近くでは、岩国の「若国カラノ」ロノ節「や柳井の」柳井小唄「なども彼の作品であり、柳井市の湘江庵には、その歌碑もあります。

最近では童謡が歌われなくなったと言われますが、「しゃぼん玉」「ついでの子」「赤い靴」「黄金虫」「雨降りお月さん」などはとても有名で、野口雨情の作品と知らずとも、きっと一度は口ずさんだことがあるのではないのでしょうか。彼の歌は、故郷・北茨城の風土と、その天性から自然にあふれ出たものといわれ、彼自身も「童謡は童心から流れて童心に訴える自然詩」「民謡は土の自然詩」と語っていたそうです。

ところで、「上関ごんげん節」の歌詞は残っていますが、残念ながら、残念ながら曲が定かではありません。どなたか歌える方はいらっしやいませんか？

ご存知の方は、ぜひ、ご一報ください。



上関ごんげん節

作詞 野口雨情

- 1. 周防上関 寒さは知らぬ 冬を忘れて 春が来る
2. 舟で廻れば 長島七里 二町たらずの 瀬戸がある
3. 霞たなびきや 白帆も見えぬ どこが九州か 四国路か
4. 誰が待つやら 灯のつく頃は 福浦沖行きや 櫓がしわる
5. 鹿尾の浜沖 鯛網どころ 日和つづきの 頃となる
6. 東山から 夜毎に月は 松の上から 瀬戸のぞく
7. 秋の上関 みかんの頃は におい ゆかしき風が吹く
8. ついて行きたや 上関港 船で喜らそと いとやせぬ
9. 風に吹かれりや 千年松も 末にや 枝さえなびくやら
10. 西と東に 瀬と瀬が 一つ ままになる瀬と ならぬ瀬と
11. 冬の半ばに 上関港 梅の花咲く 春だより
12. 上関から 瀬戸出た船は どこかの港に 行くのやら
13. 海がくもれば 城山かけて 祝島まで 雨となる
14. 大師山には 八十八の 石の御仏 おんすがた
15. 女ながらも 小舟をこいで 唄で わかめを刈りに行く
16. 上関から 平群かけて 舟はまぎらす 上のぼる
17. 上関瀬戸 流るる汐は 寝ずに通うても 止められぬ
18. 山をうしろに 沖の浜あたり あなじ吹いても 苦にならぬ

祝島 おびす屋
食料品・日用雑貨・おみやげ
〒742-1401 上関町祝島 122
電話 0820-66-2026

Ohshita 自然菓子工房 欧舌
TEL 0820-52-2038 FAX 0820-52-2538
http://www.oh-shita.com/

民宿くにひろ
1泊2食 6000円
素泊まり 3500円
〒742-1401 上関町祝島
電話 0820-66-2053
http://iwaishima.jp/minsyuku/

退職はがきの印刷
転居はがきの印刷
名刺・封筒の印刷
印刷のことなら.....
さかもと印刷
TEL 0820-52-2522
FAX 0820-52-3522